

令和7年度 事後評価シート

【事務事業シート】

当初	事 項	えひめ版学力向上推進事業費								予算主管課		義務教育課				
	事 業 概 要	県独自で開発したCBTシステムの更なる利活用や児童生徒の資質・能力の育成につながる授業改善を推進し、児童生徒の読解力の育成や授業の理解度の向上をはじめとする本県の学びの課題を克服する。								始期		2021				
										終期						
	K P I	授業でICT機器を週3回以上使用している児童生徒の割合														
		KPI種別	上がると良い指標		R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度					
		R 4 年 度		目標値	%		目標値	70.2 %		目標値	71.2 %		目標値	72.2 %		
		実績値	%		実績値	%		実績値	64.4 %		実績値	78.8 %		実績値	%	
		ストック /フロー	フロー		達成率	%		達成率	91.7 %		達成率	110.7 %		達成率	%	
		コ ス ト			最終現計 予算額	49391 千円		最終現計 予算額	45836 千円		最終現計 予算額	49818 千円		最終現計 予算額	千円	
	決算額				48684 千円		決算額	44740 千円		決算額	49231 千円		決算額	千円		
							繰越額	千円		繰越額	千円					
							不用額	587 千円		不用額	千円					
	7 年 度	要因分析		要因												
				総括												
		見直し方向性		維持		7年度の目標達成率は、十分な成果が出ている。今後更に研修等を通じて全県で取組を推進し、授業改善を図ることにより、8年度以降もKPIは目標達成すると考えられることから、8年度の執行方法や9年度予算の見直しは想定していない。										

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初	事 項	環境教育推進事業費							予算主管課		義務教育課				
	事 業 概 要	産業廃棄物の排出抑制と減量化、資源の循環的な利用についての理解を深めるため、研究指定校を指定し、研究実践を行う。							始期		2008				
									終期						
	K P I	環境教育研究推進校のうち、環境に対する意識が高まった児童生徒の割合													
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度					
		R 4 年 度		目標値	95 %		目標値	95 %		目標値	95 %				
		実績値	%		実績値	94.5 %		実績値	93.2 %		実績値	90.7 %			
		実績値	%		実績値	94.5 %		実績値	93.2 %		実績値	%			
		ストック /フロー	フロー		達成率	99.47 %		達成率	98.1 %		達成率	95.5 %			
	コ ス ト			最終現計 予算額	1006 千円		最終現計 予算額	1007 千円		最終現計 予算額	1007 千円		最終現計 予算額	千円	
				決算額	1006 千円		決算額	1007 千円		決算額	988 千円		決算額	千円	
										繰越額	千円		繰越額	千円	
										不用額	19 千円		不用額	千円	
	7 年 度	要因分析	要因 研究推進校として、研究実践を行ったことで、環境について学習することは大切であると全児童生徒が回答しているものの、学習したことを自分の日常生活とつなげて考える機会が十分でなかった可能性があり、目標達成には至らなかった。												
			総括												
		見直し方向性	維持	7年度のKPIの実績は、目標値に4.3ポイント及ばなかったものの、環境教育への意識は高く、本事業を継続することにより、KPIは目標達成すると考えられることから、8年度の執行方法や9年度予算の見直しは想定していない。											

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初	事 項	科学の甲子園ジュニア県代表選考事業費								予算主管課	義務教育課
	事 業 概 要	中学生が科学を学ぶ楽しさ・意義を実感できる場を提供し、理数教育の充実を図る。								始期	2013
										終期	
	K P I	大会後の参加者アンケートにおける「科学技術に関する学習意欲」の肯定率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		R 4 年 度		目標値	85.9 %	目標値	85.9 %	目標値	85.9 %	目標値	85.9 %
		実績値	%	実績値	93.5 %	実績値	93.75 %	実績値	92.2 %	実績値	%
		ストック /フロー	フロー	達成率	108.85 %	達成率	109.1 %	達成率	107.3 %	達成率	%
		コ ス ト		最終現計 予算額	1079 千円	最終現計 予算額	1097 千円	最終現計 予算額	1010 千円	最終現計 予算額	千円
	決算額			678 千円	決算額	638 千円	決算額	635 千円	決算額	千円	
					繰越額	千円	繰越額	千円			
					不用額	375 千円	不用額	千円			

7 年 度	要因分析	要因								
		総括								
	見直し方向性	維持	7年度のKPIの実績は、極めて高い成果が出ており、8年度以降も現在のニーズを踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、8年度の執行方法や9年度予算の見直しは想定していない。							

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初	事 項	愛ある愛媛の道徳教育推進事業費						予算主管課		義務教育課			
	事 業 概 要	学校・家庭・地域が一体となった道徳教育を推進するため、実践研究を行う。						始期		2009			
								終期					
	K P I	「道徳」の時間がためになると思っている児童生徒の割合											
		KPI種別	上がると良い指標		R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度		
		R 4 年 度		目標値	68 %		目標値	68 %		目標値	68 %		
		実績値	%		実績値	60.2 %		実績値	64.3 %		実績値	63.5 %	
		実績値	%		実績値	60.2 %		実績値	64.3 %		実績値	63.5 %	
		実績値	%		実績値	60.2 %		実績値	64.3 %		実績値	63.5 %	
	ストック /フロー	フロー		達成率	88.53 %		達成率	94.6 %		達成率	93.4 %		
	コ ス ト			最終現計 予算額	7285 千円		最終現計 予算額	7073 千円		最終現計 予算額	6760 千円		
				決算額	5790 千円		決算額	5970 千円		決算額	5281 千円		
				繰越額	千円		繰越額	千円					
				不用額	1479 千円		不用額	千円					

7 年 度	要因分析	要因 研究推進校（指定1年目）の取組に係る好事例を、県内小中学校の道徳教育推進教師が参加する中間発表会で公開するとともに、実践の概要をまとめたブックレットの配付や授業動画の配信を行ったものの、各学校における道徳教育の実践に十分に広がっていない可能性があり、目標達成には至らなかった。								
		総括								
	見直し方向性	維持	7年度のKPIの実績は、目標値に4.5ポイント及ばなかったものの、達成率は9割を超えており、本事業を継続し、事業内容の一層の充実を図ることにより、目標を達成する可能性があることから、8年度の執行方法や9年度予算の見直しは想定していない。							

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初	事 項	情操教育推進事業費							予算主管課	義務教育課	
	事 業 概 要	知性と感性の調和がとれた発達を目指し、心身ともに健全な児童生徒を育成するため、 各種事業を実施する。							始期	1967	
									終期		
	K P I	「とても有意義な事業であり十分満足していた」と回答した児童生徒の割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		R 4 年 度		目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %
		実績値	%	実績値	78 %	実績値	82.6 %	実績値	79.3 %	実績値	%
		ストック /フロー	フロー	達成率	78 %	達成率	82.6 %	達成率	79.3 %	達成率	%
		コ ス ト		最終現計 予算額	936 千円	最終現計 予算額	913 千円	最終現計 予算額	448 千円	最終現計 予算額	千円
				決算額	598 千円	決算額	868 千円	決算額	346 千円	決算額	千円
					繰越額	千円	繰越額	千円			
					不用額	102 千円	不用額	千円			

7 年 度	要因分析		要因 事業への満足度について、肯定的な回答（「十分満足」「満足」）は98%と概ね良好だったものの、児童生徒の音楽活動の経験や興味関心に個人差があることから、目標達成には至らなかった可能性がある。							
			総括							
	見直し方向性		改善	7年度の目標達成率が、昨年度と概ね横ばいであったことを踏まえ、現行の実施内容等を維持しつつ、開催時期や開催内容について、更に工夫・改善を図っていく。（8年度執行に反映）						

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初	事 項	えひめデジタル・シティズンシップ育成事業費							予算主管課		義務教育課	
	事 業 概 要	新技術を適切に扱う実践力とネットトラブルへの対応力等を、発達の段階に応じて全ての児童生徒に早急に育成するために、安全・安心な環境で、多種多様なネットトラブルを疑似体験できるアプリを開発し、情報社会に参画する態度や自律的な行動規範の育成を図る。							始期		2025	
									終期			
	K P I	ネットワークトラブルにあっていない児童生徒の割合										
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度		
		R 4 年 度		目標値	%	目標値	%	目標値	93.7 %	目標値	93.7 %	
		実績値	%	実績値	%	実績値	%	実績値	88.6 %	実績値	%	
		ストック /フロー	フロー	達成率	%	達成率	%	達成率	94.6 %	達成率	%	
		コ ス ト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	7720 千円	最終現計 予算額	千円	
				決算額	千円	決算額	千円	決算額	7720 千円	決算額	千円	
					繰越額	千円	繰越額	千円				
					不用額	千円	不用額	千円				

7 年 度	要因分析		要因 インターネットを利用できる自分専用の機器の所持率が高く、何らかのネットトラブルを経験した児童生徒の割合も高かったことから、目標達成に至らなかった。 （「知らない人から何度もメールや電話があった」など、本人による回避不可能なトラブルについては除外している。）							
			総括							
	見直し方向性		維持	7年度の目標達成率は、想定よりも低調であったものの、9割を超えており、授業時において児童生徒が当事者意識を持って学習に取り組めるよう、利用促進を図ることで、KPIは目標達成すると考えられることから、8年度の執行方法や9年度予算の見直しは想定していない。						

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初	事 項	グローバル人材育成に向けた英語力強化事業費							予算主管課	義務教育課	
	事 業 概 要	「聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えとその理由を話したり書いたりすること」 「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ったり読み取ったりすること」といった課題を克服し、グローバル人材を育成するため、児童生徒の英語力の強化を図る。							始期	2025	
									終期		
	K P I	英検 3 級相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		R 4 年 度		目標値	%	目標値	%	目標値	55 %	目標値	57.5 %
		実績値	%	実績値	%	実績値	%	実績値	49.8 %	実績値	%
		ストック /フロー	フロー	達成率	%	達成率	%	達成率	90.5 %	達成率	%
	コ ス ト			最終現計	千円	最終現計	千円	最終現計	72451 千円	最終現計	千円
				予算額		予算額		予算額		予算額	
				決算額	千円	決算額	千円	決算額	70682 千円	決算額	千円
								繰越額	千円	繰越額	千円
				不用額	1769 千円	不用額	千円				

7 年 度	要因分析		要因 聞く・話す力の強化を図るためのEILS機能強化や生成AIを活用した英会話練習教材の導入、英語学習成果確認テスト【E-ACT】、英語授業力強化研修会の実施により、前年度の49%から0.8ポイント増加したが、機能や教材の開発に時間を要し、児童生徒の十分な習熟が図られなかった可能性があるため、目標達成とはならなかった。							
			総括							
	見直し方向性		維持	8年度は、7年度に開発した英語力向上に向けた機能や生成AIを活用した英会話練習教材を活用した授業研究会等を開催し、効果的な活用事例の横展開を図ることで、児童生徒の英語力向上を図る。英語授業力強化研修会では、生成AIの活用法等を含む内容に改善し、7年度よりも更に内容の充実を図る。						

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初,2 月補正	事 項	小中学校児童生徒 1 人 1 台端末整備事業費							予算主管課	義務教育課	
	事 業 概 要	公立小中学校における情報機器の整備を図るために要する経費を補助する。							始期	2025	
									終期	2028	
	K P I	1人1台端末の更新率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		R 4 年 度		目標値	%	目標値	%	目標値	100 %	目標値	100 %
		実績値	%	実績値	%	実績値	%	実績値	100 %	実績値	%
		ストック /フロー	フロー	達成率	%	達成率	%	達成率	100 %	達成率	%
		コ ス ト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	3371577 千円	最終現計 予算額	千円
				決算額	千円	決算額	千円	決算額	3362217 千円	決算額	千円
								繰越額	千円	繰越額	千円
					不用額	9360 千円	不用額	千円			

7 年 度	要因分析		要因							
			総括							
	見直し方向性		維持	7年度は目標達成しており、次回、10年度に予定されている端末整備についても、執行方法や予算編成など、7年度と同様に進める予定。						

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。